（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）
神奈川県教育委員会教育長　殿

提出日：令和６年４月 19 日
学校名：県立津久井浜高等学校

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 21 日実施）	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学習意欲を高め、未来を切り拓くことのできる自立した学習者を育てる。そのための教育課程を編成する。 ②生徒の主体性を育むため学校行事・探究活動等を活性化させ、社会に通用する人間を育てる。	①ICT 機器・一人一台端末を生かした学習活動について実践を積み上げるとともに、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行う。 ②行事や探究活動を通じ、自ら考え行動し、課題を解決する力を身につけさせる。	①一人一台端末を生かした学習活動の実践を積み上げられるよう２学期に校内研修会などを通じて、主体的・対話的で深い学びを目指して授業改善を行う。 ②行事に係の生徒の役割を作り運営を通して達成感を経験させる。	①一人一台端末を用いた授業実践について、単元の中で適切に学習活動を設定することができたか。また、生徒が主体的、対話的で深い学びを実感できる授業を行うことができたか。 ②行事の中に生徒の役割が分担され、主体的に運営する場が確保されたか。	①一人一台端末を用いた授業実践について、単元の中で適切に学習活動を設定できるようになってきた。また、一人一台端末を活用した授業研究を行い、生徒が主体的、対話的で深い学びを実感できる授業を行うことができるようになってきた。 ①学習効果および学習意欲を高めることを目的に、次年度より学習支援アプリ Classi、ロイロノートを導入することとした。 ②６月のスポーツフェスタ、９月の津浜祭では、３年生を中心に自主的に活動し、今後の行事運営の見本となった。	①様々な活用方法を共有するために、校内研修会および研究授業を定期的に開催する必要がある。 ①Classi やロイロノートの活用および評価について、業者からの情報や他校の状況等も参考にしながら検証する必要がある。 ②委員会活動も含めてさらに学校全体で生徒が役割分担した行事運営をできるように指導していく。	［３年保護者］ 92.3％が（生徒本人が）高校に満足していると回答 ［学校運営協議会］ ・ロイロノートやあ Claasi 活用の効果を期待したい。端末が個人負担で大変だが、同窓会も相談に乗りたい。 ・Classi、ロイロノートをなぜ使うのか、活用の目的やゴールを明確にする必要がある。紙の削減にもつながり、SDGs の理念に沿った教育活動と考える。	①ロイロノートや Classi の導入をきっかけに、教職員一人ひとりの「一人一台端末」への意識が高まり、「どう使うのか」から、「どのように学習効果を高めるか」という意識の変容が見られる。一方でアプリの使用法や、生徒への指導について、不安を抱える教職員も一定数存在する。 ②各種イベントはもとより、学校説明会や終業式などでも、生徒による司会進行の場面が増えてきた。今後はさらに生徒自身が企画し、運営する行事を増やしたい。	①年度当初は、ロイロノートや Classi の活用方法について、複数回研修を行い、職員自身の授業への導入に抵抗感を減らすことが必要である。非常勤講師についても、できるかぎり研修を受講してもらい、授業での活用を期待したい。 ②生徒会や文化祭実行委員会に、職員がつきっきりで指導するのではなく、ある程度生徒の自治や自主性に任せた行事計画をさせるなどの工夫が必要である。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①基本的生活習慣の確立を図る。 ②部活動等を通し、自己肯定感を高め、自己理解・多様性の理解につなげる。 ③生徒個々の理解のため組織的な対応をし、ユニバーサルデザイン（UD）の考え方に基づいた居心地の良い学校をつくる。	①授業を大切にする態度を育成するとともに、法令を遵守する意義について、日々の指導で周知し、基本的生活習慣の確立を図る。 ②自他ともに大切にする気持ちや自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を向上させるとともに、多様性を受容する心を育てる。 ③UD の観点に基づいた授業・環境づくりを行い、すべての生徒にとって安全・安心な学習環境を整備する。また、支援を必要とする生徒のため、教育相談体制を充実させる。	①月 5 回以上の遅刻者への学年指導を継続し、生徒の時間厳守への意識を高める。また、服装指導、頭髪指導を通して、生徒の日常生活での変化に気づくきっかけ作りを行う。 ②学習活動や対話を通して自己理解を深め、想像力を働かせて、他者を思いやりながら、自他の立場を尊重してものごとを考える力を養う。 ③黒板表示の工夫や掲示物の整理を始めとした UD 化の取組を推進し、すべての生徒にとって必要な支援を行えるよう心がける。 ③課題のある生徒に関する情報共有の場を設け、SC、SSW などの専門家等の助言に基づく根拠のある支援を充実させる。	①学年指導を受ける生徒数が減少させられたか。個別指導をきっかけにして生徒の基本的な生活習慣の変化に気づく件数が増加したか。 ②適性検査や総合的な探究の時間における活動を通して、自己理解につながる学びの場を提供することができたか。また、多様な生き方や考え方があることに気づく機会を設けられたか。 ③本校の UD 化の取組について、方策の具体的な意味を意識しながら環境整備を行うことができたか。 ③専門的助言に基づいた根拠のある支援が行えたか。	①遅刻指導対象生徒は各学年ともほぼ固定化され、個別指導のきっかけとなっている。生活面全体を指導したことで改善した生徒もいた。 ②「学びみらいパス」を年度当初に実施することで、将来を見通すきっかけを生徒に与えることができた。担任との面談等を通して文理選択が適正にできる生徒も多くなり、進路選択の大きなヒントになった。 ③教室前面に掲示物を極力貼らない呼びかけを行い、ほぼ全教室でそれが達成された。しかし、毎時間の授業の目標と内容のマグネット表示については、活用の仕方に課題が残った。 ③支援ニーズを精査し、神経症圏にあるケースは心理士、精神病圏にあるケースは医師につないで連携しながら援助した。また、環境調整の必要なケースは SSW に保護者等と連携した支援を依頼し、ケースに応じた専門家が関わる支援を心がけた。さらに児童相談所や警察など他機関と連携して生徒の課題に対応した。	①学校生活への意欲を持てない生徒が数名指導対象となっており、効果的な指導ができていない。 ②選択した進路希望の実現のために粘り強く努力を積み重ねることが苦手な生徒に対して、常に意欲を維持させるための方策を検討する必要がある。 ③授業の目標と内容のマグネット表示の活用例を示したり、他の有効な取組例を研修で取り上げたりして、引き続き意識の向上を図る。また、他の有効な取り組みがあれば紹介できるように調べて研修等に活かしたい。 ③担任業務による多忙さからケースごとに支援会議を設定できないことが多かった。支援方針が学年と共有できないこともあり、指導に反映できないことがあったため、多忙さの中でいかに支援会議の時間を確保するか検討する必要がある。	［３年保護者］ 90.1％が（生徒本人が）人を思いやる気持ちが身に付いたと回答 ［学校運営協議会］ ・生徒支援は個人が過重な負担を負うものではなく、「チーム学校」で取り組むものだと思う。時間割の中にケース会議を入れるなど、他の業務を圧迫しないような工夫が必要だろう。 ・近隣中学校の支援学級を訪問し、保護者も交えたガイダンス等を行うことで、インクルーシブ校に関する知識が広まるとともに、不本意入学も減少すると考える。 ・UD 化はダイバーシティが重視される今般、非常に重要な取組だと思うが、特にインクルーシブ校では生徒に理解させたい内容である。専門家を呼んで研修を行い、生徒に還元するなどの取組も必要かと考える。 横須賀市にも「人権・ダイバーシティ推進課ジェンダー平等係」があるので、必要なら連携したい。	①本年度より SC、SSW、スクールメンターが週１回来校し、多くの生徒の相談を受けた。それによって学校生活に対して前向きになる生徒がいたなどの効果があった一方で、家庭問題などの本人や外部の人間が改善しにくい課題のある生徒が少なくない。生徒が安心して学校生活を送れるような体制を、学校としてさらに整備していく必要がある。 ①まず、なぜ学校のルールを守る必要があるのかという根本的な概念を十分理解できていない生徒がかなりいる。将来の自分の生き方を方向付ける重要な時期であることを自覚させ、必要な規範意識の醸成を図る必要がある。 ③職員会議等で、課題のある生徒についての情報共有は行ってきたが、ケース会議などを通じて、どう指導・支援していくかという具体的な方策を考える機会が少なかった。	①SC と SSW の連携をさらに強め、必要に応じて SSW を通じて外部の機関と連携することで、違った視点から問題を抱える生徒の支援を行う機会を増やすとともに、可能な限り学年会等にも参加してもらい、支援が必要な生徒の情報共有を図る。 ①特別指導について、現行の内容を精査し、出欠席の扱いについて改定するなど、生徒の問題行動に対して、学校として毅然とした態度で指導することも検討の余地がある。また、同様の内容で繰り返し指導を受ける生徒に対し、生活態度を改善させるための工夫を職員全員が考える必要がある。 ③ケース会議を定期的に設定するなど、生徒や家庭に寄り添った支援を学校として行うことで、生徒が安心して学校生活を送れる環境つくりに努める。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 21 日実施）	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが自己の人生設計のもと、進路を選択できるように組織的に支援する。 ②将来の進路希望実現のために努力する人間を育てる。	①生徒一人一人が、自己の適性を把握し、進路希望の実現を図れるよう、生徒の実情に合った適切な支援を行う。 ②自身の将来の展望をイメージし、それに向けて努力を重ねる生徒を育成する。	①スタディサポートや、適性検査、進路説明会等を通じて、各生徒の進路希望が活かせるような支援を行う。 ②総合的な探究の時間や面接指導の中で、自分のキャリアを主体的に想像することができるような支援を行っていく。	①様々な指導で得られた情報を活かして、各生徒の進路希望を正確に把握し的確に支援できたか。 ②生徒一人ひとりのニーズに合わせた進路指導を支援できたか。	①各学年ｽﾀﾃﾞｨｻﾎﾟｰﾄの事前学習課題で意識づけを行い実施した。学習習慣・到達度の状況について進路希望に沿って面談を実施した。 ②進路説明会では事前に質問を取り、主体的な参加を促せた。また個別に質問できる機会を積極的に設け有効活用できた。 ③他校の取組状況等を参考にし、次年度より進路指導においても Classi を活用することとした。	①進路希望の定まらない生徒に対してのアプローチや、主体的、定期的な情報収集の支援は細分化、より具体化する必要がある。 ①ｽﾀﾃﾞｨｻﾎﾟｰﾄについて、個々の生徒の活用状況に課題が残った。 ②進路意識の醸成は進路探究のみの時間にとどまりがちであるため、情報収集や考えを深める方法を検討したい。 ②自身のキャリアを想像できない生徒が一定数いる。 ③進路指導においても Classi を有効活用できたか検証する必要がある。	［３年保護者］ 84.6％が（生徒本人が）夢や希望が持てたと回答 ［学校運営協議会］ ・進路指導についても、Classi やロイロノートは効果が期待できる。自身のキャリアを想像できない生徒が一定数いるとのことだが、横須賀市では「MTT（マイタウンティーチャー）」という市内企業で働く大人を総合的な探究の時間に派遣している。必要があればぜひお声掛けいただきたい。 ・スタディ・サポートの説明がなかったが、効果等について聞いてみたい。	①スタディ・サポート等で、生徒の適性把握やキャリア意識の向上を図ることができたが、一方で早い段階で進学希望のレベルを下げてしまったり、学習意欲が減退してしまったりする生徒も少なくないので、より質の高い進路実現の意識を保持させる必要がある。 ②キャリア・パスポートの活用について、一定の効果は見られたが、総合的な探究の時間以外の授業や HR 等でも、自身の適性や性格に応じた数年後の自分をイメージさせる機会を増やす必要がある。	①スタディ・サポートについては、導入の目的や期待される効果、実態などを総括し、より効果的な活用について議論を深める必要がある。また、Classi との紐づけがどの程度できるのか、業者と連携を深め、検証することが必要である。 ②Classi のポートフォリオ機能や、他校での活用実績を参考に、キャリア教育にも Classi を最大限に生かし、より早い段階で自身のキャリアに対する意識を高めるための企画を実践していく。
4	地域等との協働	①豊かな人間性を育むために、地域等の教育力を活用する。 ②地域に根差し、地域に貢献できるソーシャル・レスポンシビリティの精神を涵養する。	①学校運営協議会や地域の諸組織との交流を通じて、地域を理解し、地域から信頼される学校つくりを目指す。 ②ソーシャル・レスポンシビリティの意義を再確認し、その精神を滋養するために地域のボランティアや各種活動に積極的に関与する。	①地域の方々からの要望を生徒に伝え、賛同した生徒を地域活性化の人材として活躍する。 ②ボランティアや地域活動の募集案内を整理し、最新の情報を広く生徒に周知する。また、教職員への積極的な参加を促す。	①地域の方々からの要望に賛同した生徒が地域活性化の人材として活躍できたか。 ②ボランティアや地域活動の募集案内を整理し、生徒・教職員の参加数が増加したか。	①「北下浦オレンジウォーク」などの地域活性化を目的とした事業に生徒会をはじめ様々な生徒がボランティア参加した。 ②病院、保育園、福祉施設などの生徒の進路決定に役立つボランティア活動に複数の生徒が参加した。参加者数は昨年度並みであった。	①地域活性化事業が土日祝日に行われることが多く生徒や職員の負担を考慮して参加を促す必要がある。また、近隣のボランティア募集について、学校を通さず直接 Google Form 等で集約していただく方法を模索したい。 ②病院、保育園、福祉施設など様々な人と関わる活動が多いため事前の情報提供や指導を適切に行う必要がある。	［３年保護者］ 70.0％が（生徒本人が）社会に貢献しようと思うようになったと回答 ［学校運営協議会］ ・北下浦観光協会等のイベントに生徒がボランティアで参加し、大活躍してもらった。今後もぜひ協力をいただきたい。 ・津久井浜高校と連携を望んでいるNPOも多く存在する。整理をする窓口があれば、キャリア教育と地域連携を充実させる一つのきっかけとなるだろう。	①地域のイベントにボランティアとして参加する生徒が活躍しており、非常に好評である。参加する生徒が固定化しており、より多くの生徒が参加できるよう募集の方法についても工夫する必要がある。 ②地域社会だけでなく、商工会議所や行政センターとの連携により、本校が地域にどのような貢献ができるか検討する必要がある。	①ボランティアを要請する団体に対し、Google Forms などを活用して生徒が直接申し込めるシステムを提起する。また、指導要録等の根拠資料として、ボランティア参加証を発行してもらうなどして、生徒のモチベーションをあげる。 ②商工会議所や行政センターを通じ、本校が連携できる組織、団体などの整理を行い、より広い視点から地域貢献を考える。
5	学校管理 学校運営	①信頼される学校づくりのため、様々な状況を外部に情報発信するとともに事故・不祥事防止に努める。 ②学校の安全な環境整備を行い、生徒の学習環境を保障する。	①本校の教育活動について、保護者や地域に向けて、より広く情報発信に取り組む。　また、教員が健康で働きやすい職場づくりを進め、不祥事防止について教員の意識を高める。 ②　生徒・職員の防災意識の醸成を図る。	①ホームページ等を用いて、広い地域、町内会等を意識した広報活動を実施する。 様々な研修を行い教員の意識を高める。 ②環境整備や安全・防災に関する意識向上を、日常の清掃・美化活動や防災訓練などを通じて全校に展開する。	①ホームページ等を十分に活用できたか。 教員がCMSの操作方法や活用方法について学べる効果的な研修を実施することができたか。 ②環境整備や安全・防災に関する活動を美化・防災委員の生徒とともに、全校の生徒の意識向上に結びつけることができたか。	①ホームページを活用し、校内の活動を発信することができた。人権研修を教員と生徒が協力して行い、有意義なものとなった。 ②環境整備や安全・防災に関して、日常の清掃・美化活動や地域清掃、防災訓練などを通じて全校生徒の意識向上に結びつけることができた。	①ホームページの発信内容をさらに充実し、情報発信に努め、校内の活躍の様子をもっと伝えられるようにする。またタイムリーな研修会を実施する。 ②環境整備や安全・防災に関する活動計画の作成に当たっては、全校生徒のさらなる意識向上に結びつけるためにモバイル端末の活用も視野に入れることが必要である。	［３年保護者］ 52.3％が学校の様子がよくわかったと回答 ［学校運営協議会］ ・HP を活用した情報発信がやや不十分であると思う。学校運営協議会で出た意見をまとめ、HP 上で公開することが必要である。 ・HP は保護者や入学希望者にとって必要な情報は何か、という視点で掲載する情報を精選し、必要十分な学校情報を発信する必要があるだろう。 ・防災対策についても、HP 上で情報発信されるとよいと思う。	①本年度も必要な情報は可能な限り迅速に発信してきたが、学校が考えている以上に学校 HP に対する期待や関心が高いことを踏まえ、地域に愛され、必要とされる学校つくりを目指し、学校への最初の入り口である HP の内容を充実し、市民の理解を得る必要がある。 ②防災訓練については、避難訓練やDIG訓練を実施したが、訓練のための訓練になっていることも否めない。	①HP については、担当の職員だけでなく、定期的に掲載内容を共有するなどして、職員全体が発信内容に関心をもち、より充実した HP にしていくことが必要である。そのために、CMS の研修を行うなど、HP の仕組みについても職員に広めていく。 ②東日本大震災や能登半島地震の事例を教訓に、危機管理の専門家を招聘して研修を行い、より実効的な防災訓練を計画し、生徒・職員の防災意識の向上を図る。また、分教室を巻き込んだ防災訓練を実施する。